

# 感染制御医学特論（石井信之）

Advanced Course of Endodontic Infection Control (Nobuyuki Tani-Ishii)

## キーワード

- ① 歯髄生物学
- ② 免疫応答と歯髄疾患
- ③ 骨免疫と根尖性歯周炎
- ④ 歯内療法学
- ⑤ 歯髄組織と再生療法

## 授業概要

齶蝕の進行により、歯髄炎および根尖歯周組織炎の発症と進展が惹起される。感染制御医学特論では、歯髄炎および根尖歯周組織炎の発症メカニズムにおける細菌学、病理学、免疫学および分子生物学の理解を含め、感染制御の臨床的治療方法について最新の歯科材料、薬剤を使用した手技についての基礎知識と理解を深め、新たな治療法の開発の基礎となる講義をセミナー形式で行い指導する。

## 授業科目の学修目標

う蝕、歯髄組織疾患の発症メカニズムを分子生物学的、免疫生物学的、および病理学的手法に基づいた研究を行い理解するとともに、本科目では歯内療法学を実践する上で必要な基礎医学知識を関連付けて理解することを目標とする。

## 授業計画

- ① 歯髄生物学と歯内療法学総論 5コマ 石井信之
- ② 歯髄疾患と免疫応答 5コマ 石井信之
- ③ 骨免疫と根尖性歯周疾患 5コマ 石井信之
- ④ 歯内療法学総論 5コマ 石井信之
- ⑤ 歯髄組織と再生療法 5コマ 石井信之
- ⑥ マイクロスコープによる歯内療法 5コマ 石井信之

## 教科書および参考書

歯内療法学特論 配布プリント

## 履修に必要な予備知識や技能、および一般的な注意

感染制御医学特論では授業項目とそれに関連する最新の学術論文を熟読し、概要の理解が求められる。

## 大学院生が達成すべき行動目標

- ① 歯髄生物学を理解し、歯内療法における研究計画立案ができる。
- ② 歯髄疾患と免疫応答の理論を理解する。
- ③ 根尖性歯周疾患と骨免疫の理論を理解する。
- ④ 歯内療法学の総論を理解する。
- ⑤ 歯髄組織と再生医療の理論を理解する。
- ⑥ 最新の歯内療法理論を理解する。

## 評価

試験	小テスト	レポート	成果発表	ポートフォリオ	口頭試問	その他
10%	0%	60%	0%	0%	30%	0%

## 評価の要点

- ・試験は、授業計画で行った実習の知識の理解度を判定する。1回10%
- ・レポートは、授業計画の6項目について課題を提出する。10%×6回=60%
- ・口頭試問は、授業計画の6項目についてプロダクト達成度を判定する。5%×6回=30%

## 理想的な達成レベルの目安

感染制御医学特論の理想的な達成レベルは80%以上とする。